



安全データシート

Copyright, 2026, 3M Company. All right reserved. 本情報は、3M社の製品を適切にご使用頂くために作成したものです。複製および／またはダウンロードをする場合には、以下の条件をお守り下さい。（１）3M社から書面による事前承認を得ることなく情報を変更したり、一部を抜粋して使用しないで下さい。（２）本情報を営利目的で転売または配布をしないで下さい。

Document Group Number	27-3863-1	版	11.00
発行日	2026/07/05	前発行日	2025/06/12

この安全データシートはJIS Z7253:2019に対応しています。

1. 化学品及び会社情報

1.1. 化学品の名称

3MTM 水性プライマー WP-137M

1.2. 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途

プライマー

1.3. 会社情報

供給者	スリーエム ジャパン株式会社
所在地	本社 東京都品川区北品川6-7-29
担当部門	コマーシャルブランディング&トランスポートレーションプロダクトプラットフォーム技術部
電話番号	0570-012-123

2. 危険有害性の要約

GHS分類

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 区分 2 A

皮膚感作性： 区分 1

水生環境有害性 短期（急性）： 区分 3

水生環境有害性 長期（慢性）： 区分 3

GHSラベル要素

注意喚起語

警告

シンボル

感嘆符

ピクトグラム



危険有害性情報

H319	強い眼刺激
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H412	長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

安全対策

P261	粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
P280E	保護手袋を着用すること。
P264	取扱後はよく洗うこと。
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273	環境への放出を避けること。

応急措置

P305 + P351 + P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337 + P313	眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
P302 + P352	皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
P333 + P313	皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
P362 + P364	汚染された衣類を脱ぐこと。再利用する場合は洗うこと。

廃棄

P501	内容物／容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。
------	------------------------------------

3. 組成及び成分情報

この製品は混合物です。

成分	CAS番号	重量%
水	7732-18-5	50 - 70
スチレン系ポリマー	営業秘密	30 - 40
可塑剤	営業秘密	1 - 5
2, 2, 4-トリメチルペンタン-1, 3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	5.0
界面活性剤	営業秘密	0.1 - 1
水酸化アンモニウム	1336-21-6	0.24
酸化亜鉛	1314-13-2	0.19

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合

新鮮な空気の環境に移動させる。気分がすぐれない場合は医療機関を受診する。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水で15分以上洗浄する。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。症状が続く場合は医療機関を受診する。

眼に入った場合

直ちに多量の水で洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。すすぎ続ける。直ちに医療機関を受診する。

飲み込んだ場合

口をゆすぐ。気分が悪い時は医療機関を受診する。

予想できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

アレルギー性皮膚反応（発赤、腫脹、水疱形成及びかゆみ）。

応急措置を要する者の保護に必要な注意事項

適用しない。

5. 火災時の措置

消火剤

火災の場合： 消火するために水あるいは泡消火薬剤などの、通常の燃焼物質用の消火薬剤を使用すること。

使ってはならない消火剤

情報なし。

特有の危険有害性

本製品では予想されない。

有害な分解物または副生成物

物質

一酸化炭素

二酸化炭素

刺激性蒸気あるいはガス

条件

燃焼中

燃焼中

燃焼中

消火作業者の保護

ヘルメット、自給式の陽圧ないし加圧式呼吸装置、バンカーコート及びズボン、腕、腰及び脚の周りのバンド、顔面マスク、及び頭部の露出部分の保護カバーを含む完全保護衣服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

区域から退避させること。新鮮な空気ですその場所を換気する。大量に漏洩した場合、あるいは狭小な場所で漏洩した場合は、安全衛生手順にしたがって、蒸気の拡散、排出のための強制換気を行う。ばく露評価の結果に基づいて個人用保護具を使用すること。推奨の個人用保護具についてはセクション8を参照する。漏出時に予想されるばく露がセクション8に記載されている個人用保護具の保護性能を超える場合、または不明な場合は、材料

の物理的および化学的危険性を考慮し、適切な保護性能を有する個人用保護具を選択する。緊急対応のための個人用保護具の例としては、可燃性物質の漏出時の防火服の着用、漏出物質が腐食性・感作性・重大な皮膚刺激性がある場合や皮膚から吸収される可能性がある場合の化学防護服の着用、吸入有害性のある化学物質に対しては陽圧式送気マスクの装着が挙げられる。物理的および健康有害性に関する情報については、SDSのセクション2および11を参照すること。

環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。 大量の場合には、下水設備や水施設に流入すのを防止する為に、排水溝にカバーし、土手をつくる。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏洩を止める。 ベントナイト、バーミキュライトあるいは市販の無機吸収剤を用い、漏洩物の周囲から内側に向けて覆う。漏洩箇所が乾燥するまで十分に吸収剤を混ぜ合わせる。 吸収剤を加えても物理的危険性や健康および環境影響に関する有害性を有することに留意する。 漏洩した物質を出来る限り多く回収する。 密閉容器に収納する。 洗剤と水で残さを清浄にする。 容器を密封する。 回収した物質は、国内外の法令や規則にしたがって、できるだけ早く廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

工業用又は業務用。消費者用用途への販売、使用禁止。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱後はよく洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

保管

日光から遮断すること。 熱から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理項目

許容濃度及び管理濃度

セクション3に表示されている成分名が、以下の表に見当たらない場合は、当該成分についての適切な作業時の許容濃度または管理濃度がないことを示している。

成分	CAS番号	政府機関	許容濃度または管理濃度	備考
酸化亜鉛	1314-13-2	ACGIH	TWA（吸入性分画）：2 mg/m ³ 、STEL（吸入性分画）：10mg/m ³	
酸化亜鉛	1314-13-2	ISHL（濃度基準値）	TWA（8時間）：0.1 mg/m ³	25℃1気圧空气中
酸化亜鉛	1314-13-2	JSOH OELs	TWA（総粉じん）（8時間）：4 mg/m ³ ；TWA（吸入性粉じん）（8時間）：1 mg/m ³ ；TWA（8時間）：0.5 mg/m ³	
アンモニア	1336-21-6	ACGIH	TWA：25ppm、STEL：35ppm	
アンモニア	1336-21-6	JSOH OELs	TWA（8時間）：17 mg/m ³ （25 ppm）	

ACGIH：American Conference of Governmental Industrial Hygienists
 AIHA：American Industrial Hygiene Association
 ISHL：労働安全衛生法作業環境評価基準
 ISHL(濃度基準値)：労働安全衛生法厚生労働大臣が定める濃度の基準
 JSOH OELs：日本産業衛生学会許容濃度
 TWA：時間加重平均値
 STEL：短時間ばく露限界値
 ppm：百万分率
 mg/m³：ミリグラム/立方メートル
 CEIL：天井値

ばく露防止策

設備対策

熱硬化処理を行う場合は適切な局所排気装置を使用する。空気中の有害物質をそれぞれの許容濃度以下に制御し、粉じん、フューム、ガス、ミスト、スプレーをコントロールするためにも、一般的な希釈換気あるいは局排換気を行う。換気が適切に実施できない場合は、呼吸保護具を使用する。

保護具

眼の保護具

ばく露評価結果に準じた眼・顔の保護具を選択・使用する。下記の眼・顔の保護具を推奨する。

全面マスク

間接式換気ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

ばく露評価に準じた皮膚接触を防止するために、関連した法令で認められた保護手袋・保護衣を選択・使用する。注：保護性を高めるために樹脂ラミネートされた手袋にニトリルゴム製の手袋を重ねてもよい。

推奨される手袋の材質：樹脂ラミネート。

暴露の可能性が高い用途（例：スプレー、飛沫発生が予見される用途など）に本製品が用いられる場合、保護エプロンを使用する必要がある。適切なエプロンの材料を選定する際には手袋に推奨されている材料を参照のこと。手袋で用いた材料がエプロン用で入手できない場合は、ポリマーでラミネートした素材が適切な選択肢である。

呼吸用保護具

ばく露評価によって保護マスクが必要と判断される場合には、適切なものを使用する。ばく露評価結果に基づいて以下のものから保護マスクを選択する：

半面形もしくは全面形のろ過材付き有機ガス用防毒マスク

半面形もしくは全面形面体の送気マスク(エアラインマスク)

特殊な利用に際して、マスクの適合性に疑問があれば、保護マスクのメーカーに相談する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理・化学的性質

外観	液体
----	----

物理的状态:	エマルジョン
色	青色
臭い	やっと感知できるにおい
臭いの閾値	データはない。
pH	8 - 9
融点・凝固点	データはない。
沸点, 初留点及び沸騰範囲	100 °C
引火点	データはない。
蒸発速度	適用しない
引火性	適用しない
燃焼点 (下限)	データはない。
燃焼点 (上限)	データはない。
蒸気圧	データはない。
相対蒸気密度	データはない。
密度	1 - 1.04 g/ml [試験条件: 25 °C]
比重	1 - 1.04 [試験条件: 25 °C] [参照基準: 水=1]
溶解度	適用しない。
溶解度 (水以外)	データはない。
n-オクタノール/水分配係数	適用しない
発火点	データはない。
分解温度	データはない。
動粘性率	1,471 mm ² /sec
揮発性有機化合物	0 - 0.05 %
揮発分	60 - 65 %
水と規制除外の溶剤を除いた揮発性有機化合物 (JIS-GHSの要求項目ではない)	データはない。

ナノパーティクル

この製品はナノパーティクルを含有しない。

粒子特性	適用しない
------	-------

10. 安定性及び反応性

反応性

この物質は、特殊条件下では薬品と反応する可能性がある。このセクションの他の項目を参照する。

化学的安定性

安定。

危険有害反応の可能性

有害な重合反応は起こらない。

避けるべき条件

発熱と発煙を避けるため、大量に重合する事を避ける。
熱。

混触危険物質

知見はない。

**危険有害な分解物
物質****条件**

知見はない。

セクション 5 の燃焼中の有害な分解物を参照

11. 有害性情報

セクション 2 で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しない場合があります。 また、成分の含有量が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、含有成分の毒性情報が、製品の区分、ばく露時の兆候や症状に一致しないことがあります。

毒性学的影響に関する情報**ばく露による症状**

組成の試験結果や情報より、下記の健康影響が考えられる。

吸入した場合

気道刺激： 咳、くしゃみ、鼻水、頭痛、鼻と喉の痛みなどの症状。 硬化時に発生する蒸気は呼吸器を刺激する可能性がある。症状として咳、くしゃみ、頭痛、しわがれ声、鼻および喉の痛みが現れる。

皮膚に付着した場合

軽度の皮膚刺激：局所的な発赤、腫脹、かゆみ、乾燥などの症状。 皮膚過敏症のヒトにおける非光感作性アレルギー皮膚反応： 発赤、腫脹、水疱形成、かゆみなどの症状。

眼に入った場合

眼への激しい刺激： 発赤、腫脹、痛み、催涙、角膜の曇り、視力障害などの症状。 硬化時に放出される蒸気は眼を刺激するおそれがある。症状は発赤、浮腫、痛み、涙及び眼のくもりあるいはかすみ目。

飲み込んだ場合

胃腸への刺激： 腹痛、胃痛、吐き気、嘔吐、下痢などの症状。

毒性データ

セクション 3 に開示されている化学成分で以下に情報が無い場合は、そのエンドポイントに対して利用できるデータが無い、分類するに十分なデータが無い場合があります。

急性毒性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
製品全体	経口摂取		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
水酸化アンモニウム	経口摂取	ラット	LD50 350 mg/kg
酸化亜鉛	皮膚		LD50 推定値 > 5,000 mg/kg
酸化亜鉛	吸入－粉塵	ラット	LC50 > 5.7 mg/l

	/ミスト（4時間）		
酸化亜鉛	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg

ATE=推定急性毒性

皮膚腐食性／刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
水酸化アンモニウム	ウサギ	腐食性
酸化亜鉛	ヒト及び動物	刺激性なし

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
水酸化アンモニウム	ウサギ	腐食性
酸化亜鉛	ウサギ	軽度の刺激

呼吸器感作性または皮膚感作性

皮膚感作性

名称	生物種	値又は判定結果
酸化亜鉛	モルモット	区分に該当しない。

呼吸器感作性

セクション 3 に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

生殖細胞変異原性

名称	経路	値又は判定結果
酸化亜鉛	In vitro	陽性データはあるが、分類には不十分。
酸化亜鉛	In vivo	陽性データはあるが、分類には不十分。

発がん性

セクション 3 に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

生殖毒性

生殖発生影響

名称	経路	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
酸化亜鉛	経口摂取	生殖・発生毒性の区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 125 mg/kg/日	交配前および妊娠中。

標的臓器

特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
----	----	------	---------	-----	------	-------

水酸化アンモニウム	吸入した場合	呼吸器への刺激	呼吸器への刺激のおそれ。	ヒト	NOAEL 入手できない	
-----------	--------	---------	--------------	----	--------------	--

特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
酸化亜鉛	経口摂取	神経系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 600 mg/kg/日	10 日
酸化亜鉛	経口摂取	内分泌系	区分に該当しない。	その他	NOAEL 500 mg/kg/日	6 月
酸化亜鉛	経口摂取	造血器系	区分に該当しない。	その他	NOAEL 500 mg/kg/日	6 月
酸化亜鉛	経口摂取	腎臓および膀胱	区分に該当しない。	その他	NOAEL 500 mg/kg/日	6 月

誤えん有害性

セクション 3 に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

製品及び成分に関する追加の毒性情報が必要な場合には、本 SDS の 1 ページに記載した住所、電話番号にご連絡ください。

12. 環境影響情報

セクション 2 で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しないことがあります。セクション 2 の分類に関する追加情報が必要な場合は、弊社にお問い合わせください。また、成分の環境中での運命及び有害性は、成分の含有が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、この項の内容と一致しないことがあります。

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）

GHS 水生環境有害性（急性）区分 3：水生生物に有害。

水生環境有害性 長期（慢性）

GHS 水生環境有害性 長期（慢性）区分 3：長期継続的影響によって水生生物に有害。

製品での試験データは無い。

材料	CAS番号	生物種	種類	ばく露	テストエンドポイント	試験結果
可塑剤	営業秘密	緑藻類	類似コンパウンド	72 時間	ErC50	62.87 mg/l
可塑剤	営業秘密	ミジンコ	類似コンパウンド	48 時間	EC50	11.77 mg/l
可塑剤	営業秘密	ゼブラフィッシュ	類似コンパウンド	96 時間	LC50	46.66 mg/l
可塑剤	営業秘密	緑藻類	類似コンパウンド	72 時間	ErC10	7.44 mg/l
可塑剤	営業秘密	ミジンコ	類似コンパウンド	21 日	NOEC	4.12 mg/l
可塑剤	営業秘密	ゼブラフィッシュ	類似コンパウンド	35 日	NOEC	0.93 mg/l

		シュ	ンド			
可塑剤	営業秘密	液状化	類似コンパウンド	3 時間	EC50	590 mg/l
2,2,4-トリメチルペンタン-1,3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	ファットヘッドミノウ(魚)	実験	96 時間	LC50	33 mg/l
2,2,4-トリメチルペンタン-1,3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	緑藻類	実験	72 時間	ErC50	15 mg/l
2,2,4-トリメチルペンタン-1,3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	ミジンコ	実験	48 時間	EC50	147.8 mg/l
2,2,4-トリメチルペンタン-1,3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	緑藻類	実験	72 時間	NOEC	4 mg/l
2,2,4-トリメチルペンタン-1,3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	液状化	実験	5 時間	IC50	>215 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	無脊椎動物	推定値	48 時間	EC50	21 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	ニジマス	推定値	96 時間	LC50	1.8 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	ミジンコ	推定値	48 時間	LC50	7.36 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	ニジマス	推定値	73 日	NOEC	0.0278 mg/l
水酸化アンモニウム	1336-21-6	ミジンコ	推定値	21 日	NOEC	1.1 mg/l
酸化亜鉛	1314-13-2	液状化	推定値	3 時間	EC50	6.5 mg/l
酸化亜鉛	1314-13-2	緑藻類	推定値	72 時間	EC50	0.052 mg/l
酸化亜鉛	1314-13-2	ニジマス	推定値	96 時間	LC50	0.21 mg/l
酸化亜鉛	1314-13-2	ミジンコ	推定値	48 時間	EC50	0.07 mg/l
酸化亜鉛	1314-13-2	緑藻類	推定値	72 時間	NOEC	0.006 mg/l
酸化亜鉛	1314-13-2	ミジンコ	推定値	7 日	NOEC	0.02 mg/l

残留性・分解性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
----	-------	-------	----	-------	------	-------

可塑剤	営業秘密	類似コンパウンド 生分解性	28 日	二酸化炭素の発生	92 C02発生量/理論C02発生量%	OECD 301B - 修正シュツルム試験又は二酸化炭素
2, 2, 4-トリメチルペンタン-1, 3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	実験 生分解性	28 日	二酸化炭素の発生	>77 C02発生量/理論C02発生量%	OECD 301B - 修正シュツルム試験又は二酸化炭素
2, 2, 4-トリメチルペンタン-1, 3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	実験 水生固有生分解性	15 日	DOC (溶存有機炭素) 残留量	99.5 DOC除去%	OECD 302B Zahn-Wellens/EVPA試験
2, 2, 4-トリメチルペンタン-1, 3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	実験 加水分解		加水分解性半減期	16.5 日 (t 1/2)	OECD 111 pHに応じた加水分解
水酸化アンモニウム	1336-21-6	類似コンパウンド 好気性土壌代謝		半減期 (t 1/2)	6 時間 (t 1/2)	
酸化亜鉛	1314-13-2	データ不足	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

生体蓄積性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
可塑剤	営業秘密	モデル 生態濃縮		生物濃縮係数	4	Catalogic™
可塑剤	営業秘密	類似コンパウンド 生態濃縮		オクタノール/水 分配係数	2.98	OECD 117、log Kow (オクタノール/水分配係数)、高速液体クロマトグラフィー
2, 2, 4-トリメチルペンタン-1, 3-ジオールモノイソブチラート	25265-77-4	実験 生態濃縮		オクタノール/水 分配係数	3.2	OECD 117、log Kow (オクタノール/水分配係数)、高速液体クロマトグラフィー
水酸化アンモニウム	1336-21-6	類似コンパウンド 生態濃縮		オクタノール/水 分配係数	-1.14	OECD107 log Kow フラスコ振盪法
酸化亜鉛	1314-13-2	実験 BCF - 魚	56 日	生物濃縮係数	≤217	OECD305-生体濃縮度試験

土壌中の移動性

データはない。

オゾン層への有害性

データはない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

関係法令に従って、産業廃棄物として自社で処分するか産業廃棄物処理業者に委託して処分する。

14. 輸送上の注意

国内規制がある場合の規制情報

船舶及び航空輸送上の危険物には該当しない。（国際連合危険物に該当しない） 取扱い及び保管上の注意欄に述べられている一般的注意に従ってください。

15. 適用法令

国内法規制及び関連情報

日本国内法規制（主な適用法令）

労働安全衛生法：危険性又は有害性等を調査（リスクアセスメント）すべき物（法第 57 条の 3）

労働安全衛生法：施行令 18 条の 2 名称等を通知すべき有害物

労働安全衛生法：施行令 18 条有害物質（表示物質）

主な法規制物質

労働安全衛生法：通知・リスクアセスメント・表示義務対象物質

成分	法律又は政令名称	2025年4月1日以降 2026年3月31日迄	2026年4月1日以降 2027年3月31日迄	2027年4月1日以降
2,2,4-トリメチルペンタン-1,3-ジオールモノイソブチラート	2,2,4-トリメチルペンタン-1,3-ジオールモノイソブチラート	適用しない	該当	該当
水酸化アンモニウム	アンモニア	該当	該当	該当
酸化亜鉛	酸化亜鉛	該当	該当	該当

16. その他の情報

ホルムアルデヒド基準：（日本接着剤工業会）室内空気汚染対策のための自主管理規定。J A I A-0 0 9 6 9 0 F☆☆☆☆。

改訂情報

セクション 2：環境影響ステートメント 情報の追加。

セクション 2：GHS分類 情報修正。

セクション 2：健康有害性 情報修正。

セクション 2：絵表示 情報修正。

セクション 2：注意書き - 廃棄 情報の追加。

セクション 2：注意書き - 安全対策 情報修正。

セクション 2：注意書き - 応急措置 情報修正。

セクション 3：成分表 情報修正。

項目 4：応急措置 - 症状及び影響 情報の追加。

セクション4：応急措置（皮膚の接触した場合）の情報 情報修正。
セクション5：火災時情報（消火剤） 情報修正。
セクション6：事故漏出時の措置 情報修正。
セクション7：取り扱い時の安全注意喚起情報 情報修正。
セクション8：職業暴露情報 情報修正。
セクション8：眼および顔面保護 情報修正。
セクション8：mg/m³ 記号 情報の追加。
セクション8：作業環境許容値 情報の追加。
セクション8：作業環境許容値 情報修正。
セクション8：OEL登録機関の説明 情報の追加。
セクション8：保護具 - エプロンについて 情報の追加。
セクション8：ppm 記号 情報の追加。
セクション8：呼吸器保護 - 推奨する呼吸保護具の情報 情報修正。
セクション8：皮膚保護 - 推奨する手袋情報 情報修正。
セクション8：皮膚保護 - 推奨する手袋 情報の追加。
セクション8：皮膚保護 - 推奨する手袋 情報の削除。
セクション8：STL記号 情報の追加。
セクション8：TWA記号 情報の追加。
セクション9：動粘性率情報 情報修正。
セクション11：急性毒性の表 情報修正。
セクション11：生殖胞変異原性の表 情報の追加。
セクション11：生殖細胞変異原性 情報の削除。
セクション11：健康影響情報（皮膚） 情報修正。
セクション11：生殖発生影響 情報の追加。
セクション11：生殖毒性の表 情報の追加。
セクション11：重篤な眼へのダメージ/刺激の表 情報の追加。
セクション11：眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性 情報の削除。
セクション11：皮膚腐食性/刺激性の表 情報の追加。
セクション11：皮膚腐食性及び皮膚刺激性 情報の削除。
セクション11：皮膚感作性の表 情報の追加。
セクション11：皮膚感作性 情報の削除。
セクション11：特定標的臓器毒性 - 反復ばく露 情報の削除。
セクション11：特定標的臓器毒性 - 単回ばく露 情報の削除。
セクション11：標的臓器 - 反復ばく露の表 情報の追加。
セクション11：標的臓器 - 単回ばく露の表 情報の追加。
セクション12：水生生物への急性毒性情報 情報修正。
セクション12：水生生物への慢性毒性情報 情報修正。
セクション12：成分生態毒性情報 情報修正。
セクション12：残留性および分解性の情報 情報修正。
セクション12：生態濃縮性情報 情報修正。
セクション15：労働安全衛生法の表 情報修正。

免責事項：この安全データシート（SDS）の情報は、発行時における当社の知見に基づき正確であると考えていますが、当社は、その使用から生じる損失、損害または傷害に関する賠償責任を引き受けるものではありません。（法令で要求される場合を除く）本SDSの記載内容は、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質と組み合わせでの使用では効力を持ちません。これらの理由から、お客様がご自身の用途に製品が適合しているかどうかをご自身で評価することが重要です。加えて、本安全データシートは安全衛生情報もお伝えしております。日本国へ本製品を輸入されるお客様は、製品の登録・届出、物質量の監視、想定される物質の登録・届出を含む（これらに限定されるものではありません）適用される全ての法的要求について責任を負います。

3MジャパングループのSDSは日本のウェブサイトから入手できます。